

東京のナイトタイム観光の さらなる充実に向けて

令和6年5月29日

ナイトタイムの観光を活性化する意義

- 旅行者に、日中のみならず、夜の時間帯においても東京の観光を楽しんでもらうことは、消費の拡大に資するばかりでなく、様々なメリット・意義がある。
- 今年2月に策定した「PRIME観光都市・東京 東京都観光産業振興実行プラン2024-2026」では、ナイトタイム観光を、重点的に強化する分野のひとつとして位置付け

ナイトタイム観光を活性化する主な意義

- 東京の魅力を余さず楽しんでもらうことにより、満足度の向上や、リピーターの増加につながる。
- 消費の拡大や、雇用の創出に寄与する。
- 夜でも安心して出歩ける治安の良さという東京の強みを活かすことができる。
- 観光都市としてのブランド力が向上することにより、旅行者の増加や、投資の呼び込みにつながる。
- 観光需要の時間的な分散が図られることで、日中の混雑の緩和や、需要の取りこぼしを防ぐことにつながる。



これまでの都の主な取組

ナイトタイムの新たな観光スポット等の創出

- プロジェクションマッピング国際大会と光の祭典で構成されるイベント「TOKYO LIGHTS」を開催（令和5年のイベントでは約3万人が来場）
- 東京のランドマークである都庁舎をキャンバスとして、プロジェクションマッピングを通年で上映。開始から約3か月で観覧者数は20万人超



都庁舎でのプロジェクションマッピング

地域における夜間観光の取組の支援

- 地域ならではの観光資源を活かした夜間・早朝のイベントの実施など観光協会等による誘客の取組を後押し
- 桜や建物などを活用してライトアップを行い、地域の魅力を高める取組を支援
- 区市町村や民間事業者などによる、プロジェクションマッピングを活用した誘客の取組をサポート



ライトアップイベント（北区）

夜間に芸術・文化等に触れる機会の創出

- 美術館等のユニークベニューを活用した、会議後のレセプションの開催などを支援
- 都立の美術館・博物館において、夏季の夜間時間帯に「サマーナイトミュージアム」として、開館時間延長や観覧料割引などを実施
- 様々な商業施設や文化施設が集積し、外国人旅行者からも人気の高い六本木を舞台としたアートの祭典「六本木アートナイト」を開催
- 都立公園に大規模花壇を創出し、音楽に合わせたライトアップなど行う「花と光のムーブメント」や、六義園での夜間特別観賞等を実施
- 臨海副都心の海上公園において、光と音で彩るイルミネーションを実施



六本木アートナイト
(©六本木アートナイト実行委員会)



花と光のムーブメント（都立舎人公園）

旅行者へのナイトタイム観光の情報発信等

- ウェブサイト「TOKYO NIGHT Story」で、夜景やライトアップ等のスポット、ナイトライフを楽しむ施設を紹介
- ナイトタイムの観光を安全に楽しめるよう、東京都観光ボランティアによるナイトツアーを実施

有識者会議における意見

- 「東京の観光振興を考える有識者会議」では今年2月に、ナイトタイム観光の促進をテーマのひとつとして議論
- コンテンツやアクセシビリティなど、様々な観点でご意見をいただいた。

- **インバウンドがどういう動きをしているのかを把握**した上での施策・企画が有効
- インバウンドからは、屋台など**日本らしくて楽しいところ**や、夜遅くまで入場できる美術館や動物園、また、深夜まで楽しめるアトラクションがあるといいとの声がある。
- **夜遅くまで鑑賞できる芸術やエンターテインメント**、コンサート後の時間帯に食事できる**レストラン**等が必要
- コンテンツの量や質は十分で、**チケットの購入や決済にハードル**があるかもしれないので、そういった課題を把握することが必要
- **住民にとっての日常**が旅行者にとっては非日常。日本人にとって日常的なものに、**旅行者がアクセスしやすくする**という観点も大切
- 行政としては、**民間が取り組みにくい状況の解消**に注力すべき。
- **弱視**の方は、昼間は歩けても、夜になると見えにくくなる。**誘導灯などによるサポート**が大切
- コンサート等の**チケット**購入で事前の会員登録を求められる等、**旅行者が入手しにくい状況**を改善すべき
- **交通の充実**を図ることが必要
- きちんと**マネタイズ**できているのかを考えることが必要
- ナイトタイム観光を促進することが**東京のブランド戦略**として正しいのか、よく考えることが必要

海外諸都市との比較

- 東京は、高い総合力を持つ都市として国際的にも評価されている一方、ナイトライフ充実度の項目では、総合ランクに比べて低い順位となっている。

世界の都市ランキング

(森記念財団「世界の都市総合力ランキング (概要版 2023年11月)」)

総合

順位	都市名
1	ロンドン
2	ニューヨーク
3	東京
4	パリ
5	シンガポール
6	アムステルダム
7	ソウル
8	ドバイ
9	メルボルン
10	ベルリン

ナイトライフ充実度

順位	都市名
1	ロンドン
2	マドリード
3	サンパウロ
4	バルセロナ
5	ニューヨーク
6	ブエノスアイレス
⋮	⋮
12	パリ
⋮	⋮
30	東京

東京のナイトタイムにおける旅行者の動態等

日本人旅行者と外国人旅行者の比率など

- 東京を訪れる旅行者の多くは日本人。宿泊客数（夜間を東京で過ごした旅行者）で見ると、日本人と外国人の差は小さくなる。
- 外国人旅行者が訪れた場所は渋谷が首位で、新宿、銀座、丸の内周辺と続く。

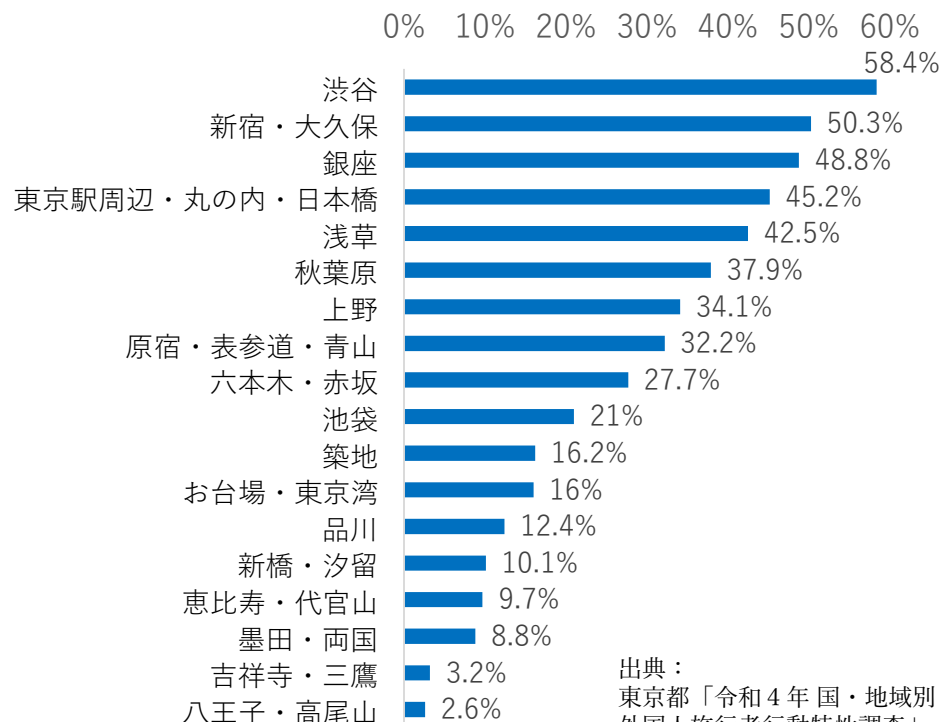
日本人旅行者数と外国人旅行者数（概数）
【令和5年7～9月】

	日本人	外国人
旅行者数	1.2億人	550万人
宿泊客	1,200万人	510万人
日帰り客	1.1億人	40万人

※「東京都観光客数等実態調査」令和5年7～9月結果（速報値）より作成

※日本人旅行者には都内在住者を含む

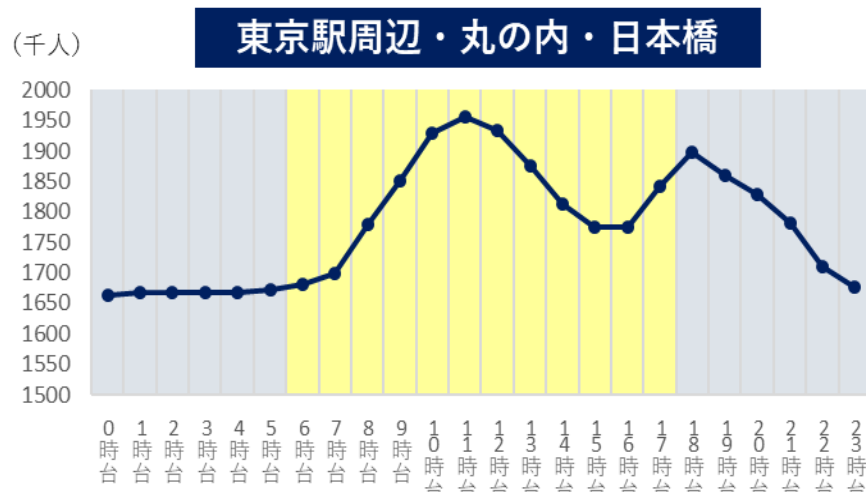
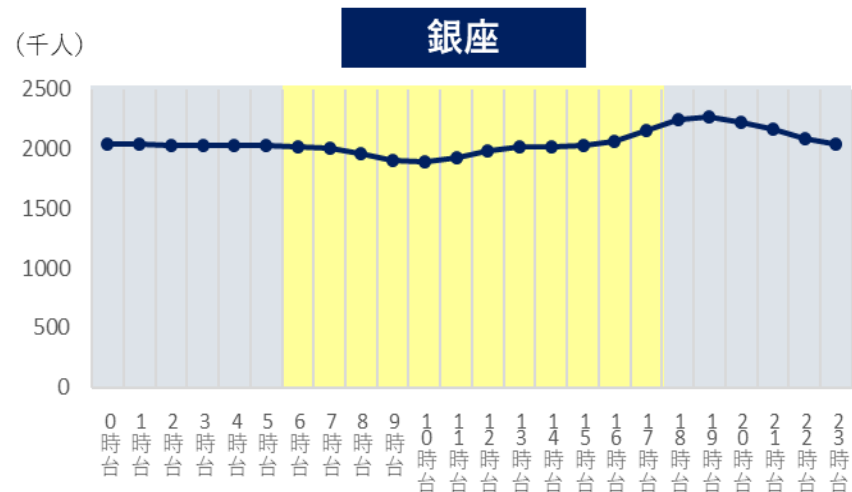
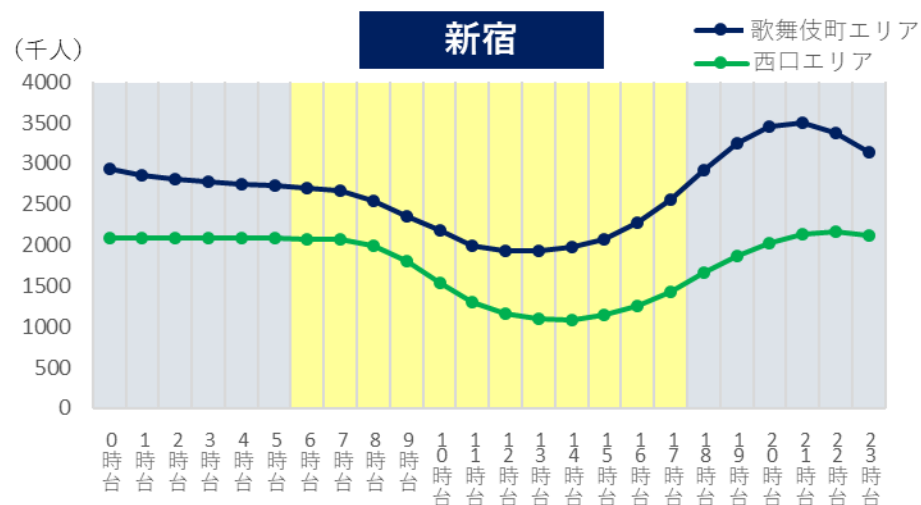
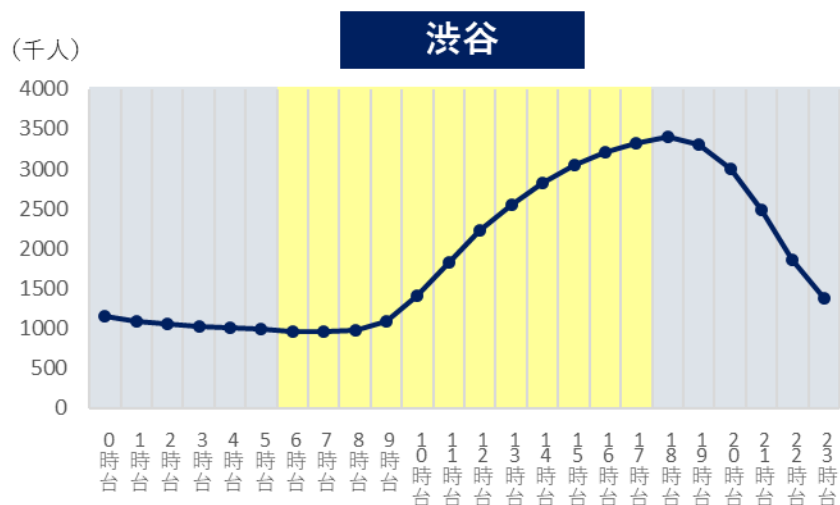
外国人旅行者が訪都中に訪れた場所
【令和4年】

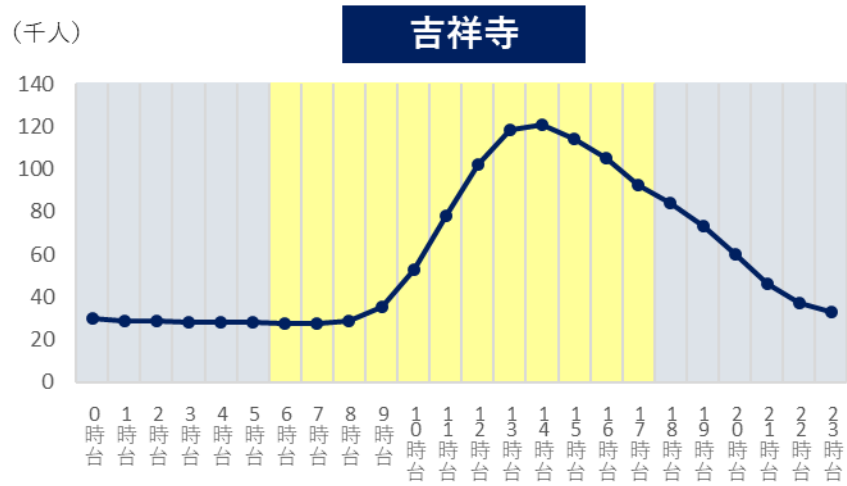
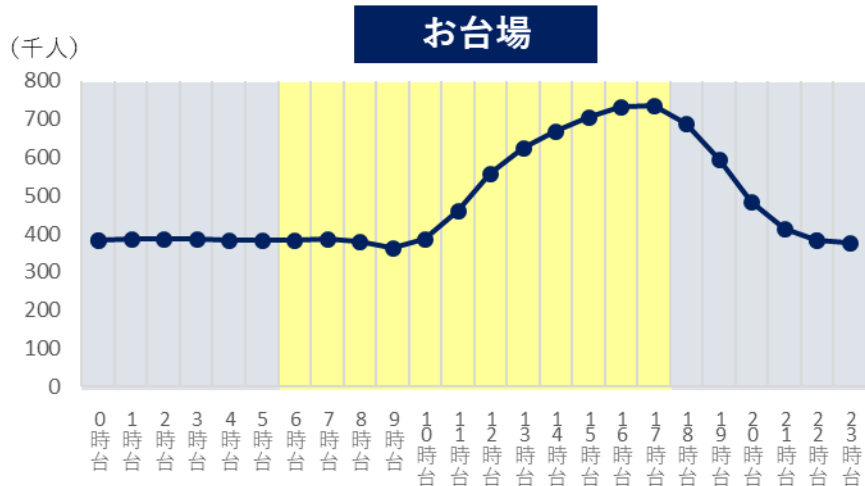
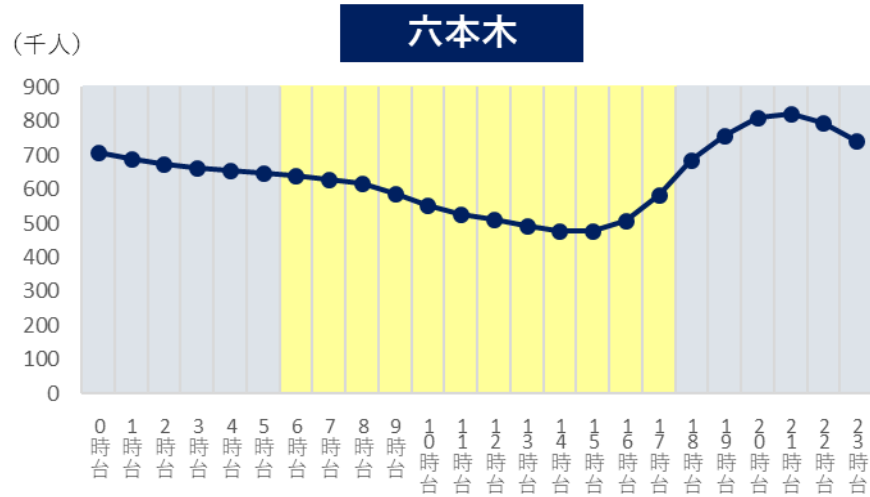
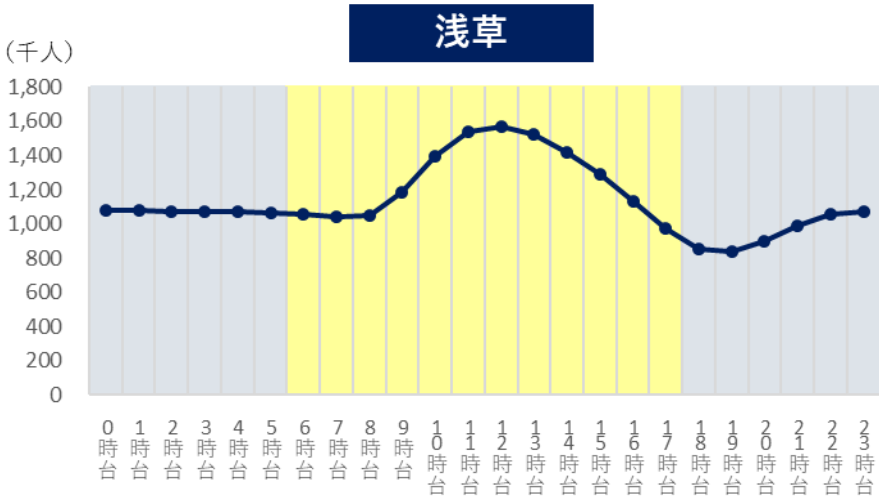


出典：
東京都「令和4年国・地域別
外国人旅行者行動特性調査」

都内各地域における時間帯別外国人旅行者数（推計）

- 地域別に各時間帯における外国人旅行者数の延べ数を推計（東京都調べ、令和4年10月～令和5年10月）
- 地域により傾向が異なり、時間帯に関わらず一定の外国人旅行者が滞在している地域もあれば、夜間の時間帯に外国人旅行者の滞在数がピークを迎える地域もある。





ナイトタイム観光の満足度が高い地域

- 外国人旅行者について、最も満足した場所で行った活動を見ると、夜景を楽しむなど、ナイトタイム観光が上位にランクインしているのは、六本木・赤坂、及びお台場・東京湾

《 外国人旅行者が東京で最も満足した場所で行った活動 》

	新宿・大久保	渋谷	東京駅周辺・丸の内・日本橋	六本木・赤坂
1位	日本食を楽しむ (14.0%)	高層ビル、近代的な街並み等の探索 (18.4%)	日本食を楽しむ (21.9%)	夜景・ライトアップを楽しむ (15.0%)
2位	服・服飾雑貨のショッピング (9.3%)	服・服飾雑貨のショッピング (14.1%)	高層ビル、近代的な街並み等の探索 (7.4%)	ナイトライフを楽しむ (11.2%)
3位	日用雑貨、化粧品等のショッピング (8.9%)	日本食を楽しむ (10.2%)	服・服飾雑貨のショッピング (4.0%)	日本食を楽しむ (6.6%)

	銀座	お台場・東京湾	浅草	吉祥寺・三鷹
1位	日本食を楽しむ (25.2%)	水辺などの探索 (15.9%)	伝統建築の見学 (32.1%)	最新の日本文化に触れる 自然を感じる(ともに20.4%)
2位	服・服飾雑貨のショッピング (23.7%)	夜景・ライトアップを楽しむ (7.2%)	日本食を楽しむ (14.5%)	
3位	日用雑貨、化粧品等のショッピング (8.6%)	日本食を楽しむ (5.0%)	伝統文化の見学・体験 (4.4%)	美術館・博物館の探索 (11.7%)

論点や議論の進め方など

議論の前提等

- ナイトタイムとは、原則として午後6時から翌朝6時までを指すものとする。トワイライトやアフターディナーの時間帯、早朝など、時間帯に応じて、必要な取組は異なってくる。
- 繁華街から豊かな自然まで多様な地域があり、その特色を踏まえた取組の検討が重要
- インバウンドのみならず、日本人観光客も楽しめるナイトタイム観光を推進することが必要
- 施策の検討にあたり、様々な産業で働き手の確保が困難であることを念頭に置く必要

主な論点

- 海外諸都市との競争の中にあって「東京ならではの」コンテンツをどう打ち出していくか
- 民間や地域の取組をどのように活性化していくのが有効か
- 豊富なコンテンツの情報を旅行者へ的確に届けるためには、どのような取組が効果的か
- 旅行者のチケット手配等における課題を解消するために必要な手立ては何か
- 地域の実情に応じた旅行者の安全・安心の確保に向けて、どのように取り組むべきか
- 地域住民の理解を得ながらナイトタイム観光の振興を進めるためには何に留意すべきか



主にこうした論点、課題に基づいて議論し、議論を踏まえて、今後のナイトタイム観光振興の方向性について、とりまとめを行う。